

第61回 病態生化学セミナー

日時：平成24年6月28日（木曜日）午後6時00分～

場所：医学部 看護学科棟2階 N21 番講義室

演題：新たな関節リウマチの治療 ―低分子化合物の可能性―

Anti-rheumatic effect of kinase inhibitors

演者：長崎医療センター 臨床研究センター 病因解析研究部

右田 清志 先生

関節リウマチをはじめとした自己免疫疾患の治療において、抗サイトカイン療法をはじめとする抗体医薬の導入により、治療のパラダイムシフトがおこっている。その一方で、価格、安全性、投与の利便性など残された課題も存在する。これら抗体療法は、炎症細胞をはじめとした病原細胞の細胞外に存在する種々の活性化分子に対する一種の分子標的療法と考えられる。それに対して、病原細胞の細胞内の分子、特にサイトカイン刺激等で活性化されるシグナル分子（キナーゼ）を特異的に阻害する低分子化合物の開発も進められてきた。これら低分子化合物のなかで、臨床試験をクリアーして、今後、臨床応用の可能性が考えられている薬剤が、Jak キナーゼを標的とした Tofacitinib、Syk キナーゼを標的とした Fostamatinib である。RA 滑膜炎に対するこれら薬剤の作用メカニズムについて、考察したい。

【右田 清志】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp